

『立命館言語文化研究』 21巻 1号～25巻 4号 総目次

21巻 1号 2009年 8月

特集

連続講座「国民国家と多文化社会」第19シリーズ

「格差拡大社会とグローバリズム」

- はじめに 中川成美, 岡野八代 pp. 3- 6
- 第1回 シングルマザーの今を考える—「格差社会」の流れの中で**
- 現代日本の子づれシングルと子どもたち 神原文子 pp. 7- 27
- 体験と事例から見える, シングルマザーの現状 風間成美 pp. 29- 36
- ひとり親家庭で育つということ 大森順子 pp. 37- 45
- 第2回 格差社会と文学1—桐野夏生を読む**
- 格差社会と娼婦—桐野夏生「グロテスク」を検証する— 種田和加子 pp. 47- 59
- 家族の解体と個の再生の物語—高齢者格差問題と桐野夏生『魂萌え!』— 金子幸代 pp. 61- 72
- 『メタボラ』—搾取をどう描くのか— 四方朱子 pp. 73- 94
- 全体討論 pp. 95- 104
- 第3回 格差社会に憲法はなにを言うことができるのか?—「生存権」をめぐる対話**
- 生存権と『自由な社会』の構想 笹沼弘志 pp.105- 114
- 生存と傍観—私たちと他者— 遠藤美奈 pp.115- 126
- 第4回 格差社会と文学2—弱きものとしての子供**
- 〈細民〉としての子ども—樋口一葉の小説を視座に— 菅 聡子 pp.127- 133
- 商品化される貧困—『にあんちゃん』と『キューボラのある街』を中心に— 林 相珉 pp.135- 142
- プロレタリア文学と児童労働—佐多稲子『キャラメル工場から』の描いたもの— 鳥木圭太 pp.143- 154
- 質疑応答 pp.155- 166
- 2008年度 プロジェクトB4 研究報告(5)**
- 戦後の農民運動と農村の変容**
- はじめに 西川長夫 pp.167- 168
- ホメーロスの『イリアス』『オデュッセイ』の英雄叙事詩の一時代の後を承けて いいだもも pp.169- 191
- 松下清雄(渡辺武夫) 関連記事—常東農民組合から茨城農民同盟へ— 伊藤淳史 pp.193- 200

個別論文

- 男女共学大学の軍事文化と女学生の「市民権」構成過程—音楽学部声楽科を中心に—
羅 允慶／金 友子 (訳) pp.201- 225
- 关于拟声词重叠式 ABB 的认知语义分析
張 恒悦 pp.227- 239
- 日本の伝統的木版摺り具の名称「バレン」がドイツ語からの借用語である可能性について
ヒルド麻美 pp.241- 259

21 巻 2 号 2009 年 11 月

International Symposium on the Teaching of English in Asia

Locating the Teaching of English in Japan in Asian Contexts:

What We Can Learn from China and Korea

- Opening Address NAKAMURA Junsaku p. 3
- Coordinator's Address ASAO Kojiro pp. 5- 6
- The Current Situation and Issues of the Teaching of English in China LIU Yongjun pp. 7- 19
- The Current Situation and Issues of the Teaching of English in Korea
KWON Oryang pp. 21- 34
- The Current Situation and Issues of the Teaching of English in Japan
YAMAOKA Kenji pp. 35- 45
- Plenary Discussion pp. 47- 58

2008 年度 プロジェクト A1 研究報告

ジェンダー・スタディーズ研究会

- はじめに 池内靖子 p. 59
- 合評会：山下英愛著『ナショナリズムの狭間から「慰安婦」問題へのもう一つの視座』（明石書店、2008 年）
- 民族の自尊心を背負う抗いの難儀—山下英愛『ナショナリズムの狭間から』をめぐる省察—
鄭 柚鎮 pp. 61- 69
- フェミニズム・ナショナリズム・植民地主義 金 友子 pp. 71- 77
- 合評会：池内靖子著『女優の誕生と終焉—パフォーマンスとジェンダー』（平凡社、2008 年）
- 池内靖子著『女優の誕生と終焉—パフォーマンスとジェンダー』をめぐって
森山直人 pp. 79- 80
- 池内靖子著『女優の誕生と終焉—パフォーマンスとジェンダー』をめぐって
岡 真理 pp. 81- 85
- 応答—はじまりのために— 李 静和 pp. 87- 98

2008 年度 プロジェクト B4 研究報告 (6)

戦後の農民運動と農村の変容

- はじめに 西川長夫 p. 99

松下清雄を語る会について	今西 一	pp.101 - 104
松下清雄を語る会		pp.105 - 136
個別論文		
En torno al status de las Comparativas el mismo...que y otro...que del español	仲井邦佳	pp.137 - 149
中国語否定副詞の習得過程における「インプット処理指導」の介入	劉 愛群	pp.151 - 167
英語と日本語の過去形の語用論	西山淳子	pp.169 - 181
Lexical Frequency Profile を用いた L2 ライティングにおける語彙の豊かさの評価	杉森直樹	pp.183 - 190
完全移動と部分移動—とりたて詞からの事例研究—	佐野まさき	pp.191 - 216
教育実践ノート		
ナレッジ・フレームワークを使用した英語授業の試み	五十川敬子	pp.217 - 229
外国語学習におけるプロジェクト授業—その理論と実践—	玉木佳代子	pp.231 - 246

21 巻3号 2010 年1月

国際ワークショップ

東南アジアとの通路—日本文学・文化研究理論を考える—

東南アジアとの通路をいかに拓いていくか		
—日本文学・文化研究の交換と共軌の探求に向けて—	中川成美	pp. 1- 3
1. タイの日本文学・日本研究		
日本文学にみるタイ表象—オリエンタリズムのまなざしから観光のまなざしへ—	メータセート・ナムティップ	pp. 5- 16
タイにおける日本文学・文化及びポップカルチャー受容の現状と研究		
—『ミカド』『蝶々夫人』から‘ブライス人形’まで—	平松秀樹	pp. 17- 28
近代日本における〈タイ〉イメージ表象の系譜—昭和10年代の〈南洋〉へのまなざし—	久保田裕子	pp. 29- 41
2. ベトナムの日本文学・日本研究		
ベトナムにおける日本文学の翻訳・出版・教育・研究—現状及び今後の課題—	TRAN Thi Chung Toan	pp. 43- 52
ベトナムにおける近年の日本研究の状況とその特徴	NGUYEN Tien Luc	pp. 53- 60
ベトナム南部における日本文化浸透から日本語普及へ	NGUYEN Vu Quynh Nhu	pp. 61- 70
コメント	中村三春	pp. 71- 73
3. マレーシアの日本文学・日本研究		
Japanese Language Courses:		
A Surging Factor into the Future (The Foundation of Japanese Studies in Malaysia)	Sohaimi Abdul AZIZ	pp. 75- 81

マレーシアにおける日本文化—日本語教育から文学翻訳まで—	葉 蕙	pp. 83- 93
4. インドの日本文学・日本研究		
インドにおける日本研究の現状		
—問題と将来性—	プラット・アブラハム・ジョージ	pp. 95- 104
コメント—インドにおける日本文学・文化研究の将来に寄せて—	稲賀繁美	pp.105- 108
5. インドネシアの日本文学・日本研究		
日本研究の展望—インドネシアをめぐって—	Bambang WIBAWARTA	pp.109- 115
コメント	木村一信	pp.117- 118
ワークショップ アジア研究の課題		
東アジアにおける政治文化と地域意識		
—「アジア的価値」論に内在するオリエンタリズムの考察—	秋田道子, 工藤 献	pp.119- 128
アニメーションと〈新〉植民地主義—アニメーターの搾取構造と東南アジアへのまなざし—	禧美智章	pp.129- 141
日本映画における「アジア的都市」の表象—『スワロウテイル』・『イノセンス』から—	松田有紀子	pp.143- 150
2009 年度 アヴァンギャルド研究会／ヴィジョアリティ研究会 共同研究報告		
駄洒落によるブルジョア批判—「ニカラグア・反-アカデミー」運動の諸相	崎山政毅	pp.151- 162
ニカラグア・アヴァンギャルド資料	崎山政毅 (訳)	pp.163- 184
世界は変わり続ける—『わが悲しき娼婦たちの思い出』論序説—	久野量一	pp.185- 192
共同的映像のひらく可能性—メキシコ・チアパス地域先住民の実践から—	佐々木 祐	pp.193- 202
2008 年度 プロジェクト B4 研究報告 (7)		
戦後の農民運動と農村の変容		
はじめに	西川長夫	p.203
農業・農民問題研究のために—お礼に代えて—	来栖宗孝	pp.205- 213
個別論文		
ツェラーンと 1968 年の詩	金子英雄	pp.215- 227
「編集」という名の思想—劉清之の『戒子通録』をめぐって—	緒方賢一	pp.229- 243

21 巻 4 号 2010 年 3 月

国際シンポジウム

環太平洋地域における日本人の国際移動

企画主旨

米山 裕 pp. 3- 4

巻頭論文

日本人の国際移動と太平洋世界の形成—「大西洋史」の成果を踏まえて—

米山 裕 pp. 5- 11

1. 太平洋世界の多様性・多元性と日本人の国際移動

パシフィック・ヒストリーに向けて—アメリカにおける研究動向を中心に—

清水さゆり pp. 13- 26

太平洋をめぐるニシンと日本人

—第二次大戦以前におけるカナダ西岸の日本人と塩ニシン製造業— 河原典史 pp. 27- 38

ハワイにおける日本人の水産業開拓史—1900年から1920年代までを中心に—

小川真和子 pp. 39- 52

誰が移民を送り出したのか—環太平洋における日本人の国際移動・概観—

坂口満宏 pp. 53- 66

「文明国標準」の南洋観—大正時代における—教授の認識—

酒井一臣 pp. 67- 76

2. GIS を活用した東洋拓殖移民への空間論的接近

GIS からみた東洋拓殖移民の地域的展開—高知県仁淀川流域を事例に—

飯塚隆藤 pp. 77- 95

東洋拓殖による農業入植地の立地特性—メソスケールの要因を中心に—

轟 博志 pp. 97- 107

東洋拓殖移民の帰国をめぐる同窓会の役割—禾湖里尋常高等小学校同窓会を事例に—

佐藤 量 pp.109- 120

3. 移住先地域から見た環太平洋日本人世界

「国際都市」上海における日本人居留民の位置—租界行政との関係を中心に—

藤田拓之 pp.121- 134

植民地空間満州における日本人と他民族—競馬場の存在を素材として—

山崎有恒 pp.135- 147

植民地朝鮮の博覧会事業と京城の空間形成

朴 美貞 pp.149- 162

戦間期ハワイにおける多民族性と日系人の「位置」

—先住ハワイ人との人種関係における—考察—

物部ひろみ pp.163- 173

多人種都市ロサンゼルスと環太平洋の想像力

—リトルトーキョー／ブロンズヴィルの経験から—

南川文里 pp.175- 184

A Transnational Generation: Japanese Americans in the Pacific before World War II

Michael JIN pp.185- 196

個別論文

Le langage peut-il passer au ras des choses ?:

Saussure, Derrida, Hjelmlev face à la limite du langage

細貝健司 pp.197- 208

Applying an Autonomous Learning Approach to an English Academic Writing Course

Jane SINGER, 東郷多津, 望月紫帆, 田中美和子 pp.209- 219

研究ノート

A Descriptive Analysis of Languages in the New York City Subway 西山幹枝 pp.221 - 238

教育実践ノート

Metacognitive Reading Strategies in EAP:

A Case Study with Practical Implications for Teaching EAP Reading Comprehension

上條 武 pp.239 - 251

22 巻 1 号 2010 年 9 月

International Symposium on the Teaching of English in Asia (2)

Locating the Teaching of English in Japan in Asian Contexts:

What We Can Learn from Vietnam, Malaysia and Philippines

Purpose of the Symposium and Introduction of the Speakers NAKAMURA Junsaku pp. 3- 5

The Current Situation and Issues of the Teaching of English in Vietnam

HOANG Van Van pp. 7- 18

The Current Situation and Issues of the Teaching of English in Malaysia

Saadiah DARUS pp. 19- 27

Philippine English: A Case of Language Drift

Jonathan MALICSI pp. 29- 58

The Current Situation and Future Prospects of Japanese English Teaching

YAMAOKA Kenji pp. 59- 66

5th Annual International Conference

Multiculturalism and Social Justice, Justice without Borders :

Multiculturalism and Global Justice

Introduction Paul DUMOUCHEL pp. 67- 68

Cultural Authenticity and Land Rights: The Colonial Appropriation of Indigenous Difference

Noah MCCORMACK pp. 69- 80

Reflection of the Concept of Nation in Early Globalization: Tagore and Sun Yat-sen

NIU Geping pp. 81- 94

Sogdian Translators in Tang China: An Issue of Loyalty

Rachel LUNG pp. 95- 105

ローカル正義・グローバル正義・世代間正義

後藤玲子 pp.107- 123

Nations and Global Justice

Paul DUMOUCHEL pp.125- 134

植民地期カリブ海地域における黒人奴隷制に対する抵抗と現在の「新奴隷制」

大野藍梨 pp.135- 146

個別論文

ファンタジーにおけるイデオロギー的意味作用の考察—アニメーション研究の見解と展望—

吉田香織 pp.147- 161

22 卷 2 号 2010 年 11 月

上映会 & シンポジウム「三池 終わらない炭^{やま}鉱の物語」

国家エネルギーとしての石炭	中川成美	pp. 1- 2
講演と討論	熊谷博子, 神谷雅子, 池内靖子 (パネラー)	pp. 3- 19
日本の炭鉱映画史と三池—『三池 終わらない炭 ^{やま} 鉱の物語』への応答—	友田義行	pp. 21- 37
海外炭鉱映画からの視点—『KAMERADSCHAFT』論—	雨宮幸明	pp. 39- 48
労働闘争のなかの文学—三池と文化運動—	茶園梨加	pp. 49- 61
コメントおよび質疑応答		pp. 63- 73

2008 年度プロジェクト B4 研究報告 (8)

戦後の農民運動と農村の変容

I

はじめに	西川長夫	pp. 75- 76
[翻刻] 松下清雄 『ユダの裏切り』に関するメモ —ハーバート・クロスニー著『ユダの福音書を追え』への書き込みが現示するもの—	内藤由直 (解題・翻刻)	pp. 77- 83
松下清雄『草青火 鳴かなかった鳥たちの祀り』を読む	倉本知明	pp. 85- 87

II

いいだも氏の論考「ホメーロスの『イリアス』『オデュッセイ』の英雄叙事詩の —時代の後を承けて」に寄せられた批判と訂正要求について	西川長夫	pp. 89- 95
---	------	------------

小特集

「グローバルゼーション時代の日本語：その感性と活力」

グローバルゼーションの中の日本語—その感性と活力—	ウェルズ恵子, 西山淳子	p. 97
---------------------------	--------------	-------

講演

『ここ、そこ、あそこ』の認知類型論—言語は空間をどう分割するか—	今井新悟	pp. 99- 101
日本語・韓国語の人称代名詞の比較	呉 秀賢	pp.103- 111
話し手の論理と聞き手の論理は日本語にどのように反映されているのか —英語との比較を通して—	海賓康臣	pp.113- 128
推論過程の二つのモデル—「ている」と「た」の解釈より—	西山淳子	pp.129- 144
「いう」と「おもう」の言語学—複合辞を用いた日本語の主体・主観表現—	田中 寛	pp.145- 179

個別論文

Crossing Linguistic Boundaries: When Students Use English Names in English Classes	Richard SILVER, Kayoko SHIOMI	pp.181- 199
Von treuen, falschen und einstigen Freunden: deutsch-englische etymologische Paare	Simon OERTLE	pp.201- 212

シンポジウム・プロレタリア芸術とアヴァンギャルド

せめぎあう「物」と「身体」の1920-30年代

回覧雑誌『密室』の画文共鳴—象徴主義とモダニズムの通路をめぐって—

木股知史 pp. 3- 16

「美術」の進出—人形座にみる大正期新興美術運動の様態—

滝沢恭司 pp. 17- 33

漫画からみるプロレタリア文化運動

足立 元 pp. 35- 51

自慰と尖端—『マヴォ』とその周囲—

野本 聡 pp. 53- 63

首のない体／字面のない活字—印刷術総合運動『死刑宣告』の身体性—

村田裕和 pp. 65- 79

中西伊之助と大正期日本の「不逞鮮人」へのまなざし

—大衆ディスクールとコロニアル言説の転覆—

アンドレ・ヘイグ pp. 81- 97

プロキノ研究史がかかえる問題

佐藤 洋 pp. 99- 110

プロキノ映画『山宣渡政労農葬』フィルムヴァリエーションに関する考察

雨宮幸明 pp.111- 124

2008年度プロジェクトB4 研究報告(9)

戦後の農民運動と農村の変容

はじめに

西川長夫 pp.125- 127

松下清雄『三つ目のアマンジャク』論—絶望を生き抜くことの痛み—

内藤由直 pp.129- 143

[翻刻] 松下清雄から西川長夫への手紙(2001年1月26日 第二信)

松下清雄(著)／内藤由直(解題・翻刻) pp.145- 150

[翻刻] 松下清雄の長篇小説「三つ目のアマンジャク」について

松下清雄(著)／内藤由直(解題・翻刻) pp.151- 156

2008年度プロジェクトB4「戦後の農民運動と農村の変容」研究報告総目次

pp.157- 158

個別論文

学習者の動機づけと英語熟達度が動機づけ方略への認識に与える影響 廣森友人 pp.159- 167

一九二〇年代の中国「小品文」に関する一考察—周作人『雨天的書』序文を中心に—

鳥谷まゆみ pp.169- 184

中日母語場面の初対面会話における話題開始の比較—参加者間の相互行為に注目して—

楊 虹 pp.185- 200

日本SFにおけるナノテクによる社会的影響の批判的展望—『銃夢』のケーススタディー—

タヤンディエー・ドゥニ pp.201- 218

22 卷4号 2011 年3月

Empire at the Margins: Ogasawara (Bonin) Islands as the Gateway to the South

帝国の周辺：南洋への入り口としての小笠原諸島

- はじめに Charles FOX p. 1
小笠原諸島に見られる旧南洋庁地域の言語的影響 ダニエル・ロング pp. 3- 13
小笠原ドキュメンタリー映画『心も丸木舟に』に見る翻訳論上の問題
一言語学的観点からの考察— 今村圭介 pp. 15- 23
循環型異文化学習モデルとしての太平洋地域の踊りと小笠原の南洋踊り
一言語を超越した理解に向けて— 新井和康, 小西潤子 pp. 25- 36
「涙がこぼれる」感情表現
—小笠原に伝播したミクロネシアの日本語歌謡《レモン林》の解釈— 小西潤子 pp. 37- 52

Natives and Others: Prewar Representations of the Ogasawara/Bonin Islands

Charles FOX pp. 53- 68

モダニズム研究会：モダニズムの世界化と亡命・移住・難民化

- はじめに 西 成彦 pp. 69- 70
I-identity ではなく We-identity を 大平具彦 pp. 71- 78
アンデスのアヴァンギャルド—思想史的文脈から— 崎山政毅 pp. 79- 88
キューバ・アヴァンギャルドとビルヒリオ・ピニェーラ 久野量一 pp. 89-107
「新感覚派」は「感覚」的だったのか？—同時代の表現思想と関連して— 島村 輝 pp.109- 118
畳まれる風景と滞る眼差し—『亞』を支える空白の力学について— エリス俊子 pp.119- 129
伊藤整『若い詩人の肖像』におけるアイルランド文学—北海道・アイルランド・内地— 鈴木暁世 pp.131- 152
目取真俊の不敬表現—血液を献げることへの抗い— 友田義行 pp.153- 165
中国新時期のモダニズムと高行健の形式実験 森岡優紀 pp.167- 178
日本語文学の越境的な読みに向けて 西 成彦 pp.179- 186

個別論文

- 英語教科書のポストリーディング問題の分析 五十川敬子 pp.187- 196
認知言語学的アプローチによるスペイン語語彙学習・指導に関する新提案（その1）
—「投影」の導入— 福森雅史 pp.197- 215

教育実践ノート

Metacognitive Reading Strategies in EAP and Their Pedagogical Application:

Extended Research and Its Implications KAMIJO Takeshi pp.217- 232

23巻1号 2011年9月

ヴァナキュラー文化研究会：語りえない人々の語りに関する超域的研究

「語られたこと」と「語られなかったこと」—序文に代えて— ウェルズ恵子 pp. 1- 2
アメリカの「民俗」と「口承性」—バラッドにおける差異の構築とナショナリズム—

小長谷英代 pp. 3- 13

笑いと回復のための語り—ゾラ・ニール・ハーストンの『驟馬と人間』を読む—

ウェルズ恵子 pp. 15- 29

あるアボリジナル・コミュニティの文化運動

—クリル・クリル儀礼とワーマン派絵画の誕生— 佐藤 渉 pp. 31- 46

日系アメリカ人強制収容とアンセル・アダムズの写真記録 荒 このみ pp. 47- 90

戦後日本のメディアイベントにおける消費文化の「語り」

—東京オリンピックと日本万博を通して— 関口英里 pp. 91-101

戦争被害と感情の記憶をめぐる省察—731部隊遺跡保護運動が語る記憶の傷痕—

田中 寛 pp.103- 125

遊牧民女性の技と記憶—西北アナトリア, ヤージュ・ベディルの人びととの交流から—

江川ひかり pp.127- 139

共有された半球を書く—アジア=オーストラリア小説の近年の動向—

アリソン・プロイノウスキー／佐藤 渉 (訳) pp.141- 148

国際日本文化研究理論研究会：日本文学研究理論の構築—フランス—

はじめに 中川成美 p.149

フランス語で書く日本現代文学史—その条件と可能性— 坂井セシル pp.151- 160

質疑応答 西 成彦 (司会)／西川長夫, 中川成美 (コメント) pp.161- 172

個別論文

Feedback Provision in L2 Writing Classes:

The Use of Poster Presentations to Fill a Gap Matthew COOMBER pp.173- 194

認知言語学的アプローチによるスペイン語語彙学習・指導に関する新提案 (その2)

—「メタファー」の導入— 福森雅史 pp.195- 217

研究ノート

会話テスト練習における2度質問の分析から見えるもの

—プロフィシェンシーのためのフィードバック内容を探る—

清水昭子, 板井芳江 pp.219- 228

23 卷 2 号 2011 年 10 月

秋季連続講座「グローバル・ヒストリーズ—国民国家から新たな共同性へ」

第1シリーズ「トランスアトランティック／トランスパシフィック」

第1回「グローバル・ヒストリーズとは何か—トランスアトランティック／トランスパシフィックな視点をもとに」

《グローバル・ヒストリーズ》をめぐって

—トランスアトランティック／トランスパシフィックな視点をもとに

崎山政毅 pp. 1- 7

コーヒーの味は歴史が決める—グローバル・ヒストリー的アプローチ—

小澤卓也 pp. 9- 25

第2回「日本を《太平洋》から眺める」

小笠原-硫黄島から日本を眺める—移動民から帝国臣民, そして難民へ—

石原 俊 pp. 27- 38

歴史の外部と倫理—グローバル・ヒストリーの歴史哲学によせて—

森 宣雄 pp. 39- 59

コメント 「捨て石」としての小笠原?

Charles FOX pp. 61- 64

第3回「平和構築のために—ジェンダー・アプローチの可能性」

戦時性暴力の被害者から変革の主体へ—中米グアテマラにおける民衆法廷の取組み—

柴田修子 pp. 71- 82

南アフリカの真実和解委員会と女性たちの証言

坂本利子 pp. 83- 92

第4回「カリブは周縁か」

はじめに

西 成彦 pp. 93- 99

「高度必需」とは何か?—フランス海外県からポストコロニアル状況を考える—

中村隆之 pp.101- 111

キューバ, 肯定の詩学と否定の詩学

久野量一 pp.113- 120

カリブ海のユートピア／ディストピア

鈴木慎一郎 pp.121- 128

イアン・F・マクニーリー氏招待講演会

<原文> Wilhelm von Humboldt and the World of Languages Ian F. MCNEELY pp.129- 147

<翻訳>ヴィルヘルム・フォン・フンボルトと言語の世界

イアン・F・マクニーリー (講演) / 石田文子 (訳) pp.149- 166

質疑応答

pp.167- 170

ジェンダー研究会シンポジウム

バックラッシュ時代の平和構築とジェンダー—「女性国際戦犯法廷」10年を迎えて—

はじめに

池内靖子 pp.171- 177

I 部 戦時性暴力／日常の性暴力

沖縄からの報告—米軍基地の現状と米兵によるレイプ事件—

宮城晴美 pp.179- 182

戦時性暴力／日常の性暴力—南京ワークショップからの報告—

村本邦子 pp.183- 185

宋神道さんと共に裁判をたたかって

梁 澄子 pp.187- 191

性暴力、植民地支配、日米同盟—女を乱用する支配—	鄭 暎惠	pp.193- 202
Ⅱ部 歴史と言説—「慰安婦」問題と関連して		
「慰安婦」・公娼の境界と帝国の企み	宋 連玉	pp.203- 208
日本軍「慰安婦」と米軍基地村の「洋公主」—植民地の遺産と脱植民地の現在性—	LEE Na-Young (李 娜榮) / 吳 仁濟 (訳)	pp.209- 228
韓国人「軍慰安婦」問題について日本政府の責任を 求めることは民族主義の発露なのか—	—体系的強かんの植民地性 (coloniality) —	
	YANG Hyunah (梁 鉉娥) / 金 友子 (訳)	pp.229- 245
「慰安婦」問題と日本の民主化	岡野八代	pp.247- 259
Ⅲ部 全体討論		
全体討論	司会 崎山政毅・池内靖子	pp.261- 283
個別論文		
Autonomous Student Learning Groups: Aims and Outcomes	Richard SILVER	pp.285- 305
The Desert Within: Searching for Union in Paul Bowles' The Sheltering Sky	Christopher SUMMERVILLE	pp.307- 317
時を表す表現—「トキニ」をめぐって—	澁谷きみ子	pp.319- 330

23 巻 3 号 2012 年 2 月

2010 年度萌芽的プロジェクト研究 B4

「占領開拓期文化研究会」 研究報告

〈占領・開拓期〉の記録と表現：文学および映像表現を中心に

〈占領と開拓〉の問題系—「占領開拓期文化研究会」活動・成果報告—	内藤由直	pp. 1- 3
犬田卯「開墾」の普通選挙批判—プロレタリア文学運動の方向転換に対する反措定—	内藤由直	pp. 5- 19
影絵アニメーション『煙突屋ペロー』とプロキノ		
—1930年代の自主制作アニメーションの一考察—	禧美智章	pp. 21- 33
能勢克男の小型映画『疏水 流れに沿って—』論—近代都市京都への映画の考察—	雨宮幸明	pp. 35- 52
終戦直後の関西雑誌メディア	和田 崇	pp. 53- 65
小林多喜二全集の編纂過程—『貴司山治日記』にみるその表裏—	伊藤 純	pp. 67- 83

2010 年度萌芽的プロジェクト研究 B6 「後期水戸学史料研究会」 研究報告

水戸藩と幕末の政治情報

論文

後期水戸学と国際秩序—文久元年の「新聞」からみる—	奈良勝司	pp. 85- 101
幕末水戸藩尊攘「激派」と「鎮派」の政治行動—坂下門外の変に至る経緯を通じて—	藤野真挙	pp.103- 118

研究ノート

- 幕末期水戸藩における海外情報—「新聞」にみるアメリカ南北戦争— 吉田武弘 pp.119-131
坂下門外の変以前の大橋訥庵と宇都宮藩 田中有美 pp.133-144
鈴木大の情報探索活動—ポサドニック号事件を事例に— 松平智史 pp.145-155

個別論文

- Schweizer Japankunde vor der Japanologie:
von der Renaissance bis zur Errichtung des ersten Lehrstuhles Simon OERTLE pp.157-170
La repercusión de la guerra en las letras:
los romanceros del bando republicano durante la Guerra Civil española y los Kyodai haiku
en las guerras de Japón durante el siglo XX 豊原ひとみ pp.171-184
The Global Reach of Social Networking Sites for Both Teachers and Students
Jeremy WHITE pp.185-196
宋代の婚礼説について 緒方賢一 pp.197-210

23 卷 4 号 2012 年 3 月

7th Annual International Conference

Multiculturalism and Social Justice: Democracy and Globalization

Introduction

- 民主主義の非決定性を逆手に取る
—ポジショナル評価に配慮した社会的選挙手続きの可能性— 後藤玲子 pp. 1-7

Section 1: History and Globalization

- The Impact of “thin” and “thick” Globalization on Turkish Democracy
Hüseyin I. CICEK pp. 9-16
Globalization and the Transformation of the Chinese State:
Comparing Modern Nation State and the Ancient Chinese State NIU Geping pp. 17-29
Democratizing a Post-Totalitarian Regime in a Globalized Context: A Normative Perspective
JIA Peijuan pp. 31-47
飢饉時における市場システムの作用—エチオピア遊牧民の場合— 岡 敬之助 pp. 49-64

Section 2: Public Reason and Democracy

- デモクラシーにおける公共的理由／理性の基礎理論の試論 村上慎司 pp. 65-76
Canadian Multicultural Broadcasting Policy at Crossroads:
Mixed Notions of Participatory Democracy and Cultural Diversity
Chikako NAGAYAMA (長山智香子) pp. 77-83
Does Global Spread of Liberal Democracies Promote Consensus on Justice?
Martijn BOOT pp. 85-102

Section 3: Consensus and Conflict

Democracy from within an Immigration Detention Center:

- A Hunger Strike by “Illegal” Migrants in Japan Hirokazu MOTOOKA pp.103- 115
Political Violence and Democracy Paul DUMOUCHEL pp.117- 123
Rawlsian Toleration among Peoples and Its Critics WU Yun pp.125- 135

Section 4: Innovation and Democracy

The Internet and the Rise of a Transnational Counter-Democracy

Louis SAGNIÈRES pp.137- 149

The Internet as a Democratizer: Exploring “Political Voice” in a Philippine Website Blog

Yellowbelle Del Mundo DUAQUI pp.151- 169

地域プロジェクトにおける潜在的資源価値の創造

谷藤真琴 pp.171- 181

Diaspora and Democracy:

Overseas Absentee Voting, Elections, and the Challenges for a Working Democracy
in the Philippines

Jeorge ALARCON Jr. pp.183- 199

Section 5: Democracy, Capability and Globalization

選択と自律をめぐる一考察—選好とケイパビリティアプローチ—

中山尚子 pp.201- 216

法の支配における手抜きゆえの基礎的ケイパビリティ喪失 / 縮減

—南アフリカ農村女性の事例—

岡 敬之助 pp.217- 233

Report

Practicing “Education for International Understanding” through Language Learning
in Japanese Primary Education

Mino MIYAMOTO (宮本美能) pp.235- 248

個別論文

A Humanistic Approach to Foreign Language Education in Japan Julian PIGOTT pp.249- 265

Grupos Focales y Competencia Comunicativa Intercultural en un Curso de ELE

de una Universidad Japonesa

Lluís VALLS CAMPÀ pp.267- 288

24 巻 1 号 2012 年 9 月

21 世紀の風景論研究会「パウル・クレーと自然」

講演「クレーと自然」に寄せて

仲間裕子 p. 1

< 翻訳 > 自律的な有機体としての芸術作品

パウル・クレー, フリードリヒ・ヘッベル, ヴィルヘルム・ヴォリンガー

ヴォルフガング・ケルステン / 野田由美意 (訳) pp. 3- 9

< 原文 > Das Kunstwerk als autonomer Organismus.

Paul Klee, Friedrich Hebbel und Wilhelm Worringer

Wolfgang KERSTEN pp. 11- 17

ヴィジュアルリティ研究会

現代メキシコにおける武装闘争

崎山政毅 pp. 19- 32

「イピランガのもつれ騒ぎ」(冒瀆的なオラトリオ) マリオ・ヂ・アンドラーヂ
『狂乱のサンパウロ』(1922年)より 崎山政毅(訳) pp. 33- 49

バイリンガリズム研究学術講演会・国際シンポジウム・ワークショップ
Harmonious Bilingual Development: What is it and how can it be Fostered?

I .はじめに 田浦秀幸 pp. 51- 52

II . 歓迎スピーチと講師略歴紹介 松田 憲, 難波和彦 pp. 53- 54

III . 特別講演とシンポジウム内容 Annick De HOUWER, 田浦秀幸 pp. 55- 66

IV . Research Methods in Bilingual Studies Annick De HOUWER pp. 67- 72

IV .1 家庭内言語選択 山本雅代 pp. 73- 76

IV .2 バイリンガル言語獲得 井狩幸男 pp. 77- 79

V . Bilingual Lives: A Dynamic Perspective on Bilingualism across the Lifespan
Annick De HOUWER pp. 80- 86

V .1 バイリンガルコードスイッチ 難波和彦 pp. 86- 90

V .2 バイリンガル言語喪失 田浦秀幸 pp. 91- 94

V .3 全体の質疑応答 田浦秀幸 pp. 95- 96

VI . 参加者からのフィードバック 板垣静香, 平 英司 pp. 97- 99

個別論文

Multimodal Texts for Multi-purpose Advertising Matthew COOMBER pp.101- 112

認知言語学的アプローチによるスペイン語語彙学習・指導に関する新提案(その3)
—「メトニミー」の導入— 福森雅史 pp.113- 148

24 巻2号 2013年2月

2011年度連続講座「グローバル・ヒストリーズ—国民国家から新たな共同性へ」

第2シリーズ「歴史のなかの感覚変容」

第1回「音声をめぐる感覚変容—《声》の政治史・《音》の社会史」

はじめに 西 成彦 pp. 1- 2

「2011年10月7日, 京都という時空の中で音を聞く」 東 琢磨 pp. 3- 14

“ホワッツ・ハプニング・ブラザー”, あるいは過去からの／他所からの声と音
鈴木慎一郎 pp. 15- 21

質疑応答 pp. 23- 30

第2回「マンガの《現在》につながる道—マンガ・リテラシーの形成と変容」

はじめに 崎山政毅 pp. 31- 32

マンガの《現在》につながる道—マンガ・リテラシーの形成と変容— 吉村和真 pp. 33- 48

第3回「恋愛小説と映画をめぐる感覚変容—日韓台の帝国／植民地近代」

序文 池内靖子 pp. 49- 54

- 1930年代日本帝国内における文化「交流」：映画『春香伝』の受容を中心に
梁 仁實 pp. 55- 72
- 植民地台湾で歌われたモダンと自由恋愛—1930年代の閩南語流行曲をめぐって—
李 文茹 pp. 73- 82
- 1920～30年代台湾における結婚／恋愛小説について
大西 仁 pp. 83- 92
- 第4回「グローバリゼーションのなかのビデオゲーム」**
- なぜいまビデオゲーム研究なのか—グローバリゼーションと感覚変容の観点から—
吉田 寛 pp. 93- 98
- Videogames in the Globalization: The Case of Finland Jaakko SUOMINEN pp. 99-108
- グローバリゼーションのなかのビデオゲーム
—フィンランドにおけるゲーム産業振興の現状と課題—
天野圭二 pp.109- 119
- 文化と文学の翻訳研究会**
- デイヴィッド・ダムロッシュ氏講演会**
- 書物の終わり？—ポスト文学時代における文学研究, 1867/1967/2067—
デイヴィッド・ダムロッシュ／田中壮泰（訳） pp.121- 142
- 個別論文**
- How the Implementation of Peer-editing Checklists Impacts the Peer Revision Process
in EFL Writing Classes Russell GAROFALO pp.143- 159
- Transformation de l'opéra français au XVIIIe siècle Yoshihiro NAITO pp.161- 174

24巻3号 2013年3月

21世紀の風景論研究会 国際シンポジウム

「21世紀の風景表象—風景の構築と自然の認識—」

- <原文> シンポジウムについて—テーマと課題— 仲間裕子 pp. 1- 5
- <翻訳> Symposium: "Landscape Representation of the 21st Century Art— Recognition
of Nature and Construction of Landscapes" Yuko NAKAMA pp. 9- 13
- <翻訳> ジャクソン・ポロックとリー・クラズナー, 自然の新しい概念
ゲイル・レヴィン／米村典子（訳） pp. 15- 23
- <原文> Jackson Pollock, Lee Krasner and a New Concept of "Nature" Gail LEVIN pp. 29- 37
- <翻訳> テクノロジーと自然を結ぶ芸術
—ロドニー・グラハム, ロニ・ホーン, ディアナ・テイター—
ハンス・ディッケル／岡部由紀子（訳） pp. 39- 49
- <原文> Triple Perspectives. The Art of Rodney Graham, Roni Horn and Diana Thater
between Technology and Nature. Hans DICKEL pp. 51- 61
- <翻訳> 中国美学における農耕文化的特性と景観表現 刘 成紀／住田翔子（訳） pp. 63- 69

< 原文 >The Agricultural Trait of Chinese Aesthetics and its Manifestation in Landscape	LIU Chengji	pp. 71- 78
< 翻訳 > 風景と環境 クリスティーナ・ヴィルコシェフスカ／要 真理子 (訳)		pp. 79- 85
< 原文 >Landscape and the Environment	Krystyna WILKOSZEWSKA	pp. 89- 95
< 日本語訳 > 風景の形態	ラッファエレ・ミラーニ／加藤磨珠枝 (訳)	pp. 97- 105
< 英語訳 >The Forms of Landscape	Raffaiele MILANI	pp.107- 116
2011 年度萌芽的プロジェクト研究 B6		
「異文化相互理解過程研究会」研究報告		
—相互文化交流を通じた学びと設計—		
「相互文化学習」授業の意義と設計—グローバル社会における言語文化教育の在り方—		北出慶子 pp.117- 130
学習者と母語話者のインターアクションによる日本語学習の可能性		
—立命館アジア太平洋大学における地域交流授業の実践から—	本田明子	pp.131- 141
異文化交流授業から国内学生は何を学んでいるか—多文化共生力育成をめざして—		
	坂本利子	pp.143- 157
個別論文		
On Perception of the Verb “Give” by Japanese Learners of English		
	Masato HAYASHI, Thomas MARKS	pp.159- 174
ABCD タイプ中国語擬声語重ね型の認知的分析	張 恒悦	pp.175- 187

24 巻4号 2013 年3月

国際カンファレンス「カタストロフィと正義」

—2011 年度国際言語文化研究所プロジェクト A8

研究所重点研究プログラム 国際正義共生研究会

Introduction: Risk, Justice and Catastrophe	Paul DUMOUCHEL	pp. 1- 6
Enlightened Doomsaying and the Concern for the Future	Jean-Pierre DUPUY	pp. 7- 13
デュピュイ氏への応答—ここにある「未来」にどう向き合うか—	西谷 修	pp. 15- 23
見立て発想法序説	村上直之	pp. 25- 31
“Justice as Reciprocity” Reexamined in the Context of Catastrophe	Reiko GOTOH	pp. 33- 42
選択結果の過酷性をめぐる—考察—福祉国家における自由・責任・リベラリズム—		
	角崎洋平	pp. 43- 57
気候変動緩和枠組みに動員される先住民	近藤 宏	pp. 59- 72
What is Enabling?—A Study of Support Groups of the Tohoku Earthquake—		
	Mariko KONISHI	pp. 73- 86
Justice and Security through the Looking Glass of Catastrophe		
—Borders, Overlaps, Challenges—	Oscar A. GÓMEZ S.	pp. 87- 102

結語：現代正義論と支援の思想	後藤玲子	pp.103-109
比較植民地文学研究の基盤整備 (1) 「引揚者」の文学		
—2012年度国際言語文化研究所プロジェクト C7		
まえがき	西 成彦	pp.111-114
「引揚げ文学」に耳を傾ける	朴 裕河	pp.115-136
「引揚者」文学から世界植民者文学へ—小林勝, アルベール・カミュ, 植民地喪失—	原 佑介	pp.137-157
(旧) 植民地で生まれ育った植民者—ジーン・リースと森崎和江—	杉浦清文	pp.159-170
個別論文		
WordNet を用いた英語多義語リストの構築	杉森直樹	pp.171-182
教育実践ノート		
Applying Student Learning Logs for Evaluating Reading Strategies in a Sophomore EAP Course: Extended Research and its Implications	Takeshi KAMIJO	pp.183-197

25 巻 1 号 2013 年 10 月

21 世紀の風景論研究会 国際フォーラム

「風景の美学 伝統と現代」

< 翻訳 > 美学か美か：自然と芸術における形式と意味	ジャレ・エルツェン／要 真理子 (訳)	pp. 1- 7
< 原文 > Aesthetics versus Beauty: Form and Meaning in Nature and in Art	Jale ERZEN	pp. 9- 15
< 翻訳 > ロシアのコンテンポラリー・アートにおける風景のナショナル・コード	アダ・ラエフ／住田翔子 (訳)	pp. 17- 23
< 原文 > National Codes of Landscape in Russian Contemporary Art	Ada RAEV	pp. 33- 39
< 和文 > 見えないものと見えるもの—中国伝統山水画から現代風景まで—	潘 潘 (パン・ファン)	pp. 41- 50
< 英文 > Visibility and Invisibility		
—From Chinese Traditional Shan Shui Paintings to Modern Landscapes	PAN, Fan	pp. 51- 58
「動いている庭」から「野原」へ—ジル・クレマンにおける風景と環境—	山内朋樹	pp. 59- 74
風景の錯綜体としての「わたしの風景」	田村 剛	pp. 75- 89

日本人の国際移動研究会

「第二次世界大戦における在外日本人の強制移動」

鉄条網のなかの「コミュニティ」		
—アメリカ合衆国の戦時強制収容は日系人社会をどう変えたのか?—	南川文里	pp. 91-103

太平洋戦争中のハワイにおける日系人強制収容—消された過去を追って—	小川真和子 pp.105- 118
鉄条網なき強制収容所—第二次世界大戦下の日系カナダ人—	和泉真澄 pp.119- 135
第二次世界大戦前後の南米各国日系人の動向—ブラジルの事例を中心に—	根川幸男 pp.137- 154
戦後中国における日本人の引揚げと遣送	佐藤 量 pp.155- 171
個別論文	
Coping with Disaster through Technology: “Goodbye me!”—Itô Keikaku’s Future Harmony—	Denis TAILLANDIER pp.173- 197

25 巻 2 号 2014 年 1 月

2012 年度秋季企画 I

第 1 回 「ホロコースト・震災・詩」

ホロコースト・震災・詩 災厄のただなかで書くこと	細見和之 pp. 1- 27
コメント・質疑応答	西 成彦, 細見和之 pp. 29- 37

第 2 回 「真空の文学—表象としてのカタストロフィ」

生きることの自責 ^{ギルティ} —原爆文学を考える—	中川成美 pp. 39- 42
核のカタストロフィと表象—原爆文学における日常の崩壊と再生—	川口隆行 pp. 43- 53
原爆を見る眼—大田洋子「ほたる」論—	村上陽子 pp. 55- 65
「忘却という継承」の消失—祝祭・遺構・モニュメント—	福間良明 pp. 67- 79

2012 年度冬季企画 I 「大日本帝国植民地と文学の言語」

『『華麗島文学志』とその時代』合評会

著者からの報告—華麗島から東アジアの比較文学へ—	橋本恭子 pp. 81- 91
コメント (1)	垂水千恵 pp. 93- 96
コメント (2)	星名宏修 pp. 97- 100
コメント (3)	豊田周子 pp.101- 126

植民地文学とその言語

小説の一言語使用問題—中西伊之助から金石範まで—	西 成彦 pp.107- 126
異言語で敗北を引き受ける—金石範からムールード・マムリへ—	鶴戸 聡 pp.127- 139
コメント (1) : 夢 = 記憶の再構成と言語	渡辺直紀 pp.141- 145
コメント (2) : 方言・ルビ・バイリンガリズム	安田敏朗 pp.147- 156
コメント (3) : 日本人植民者の戦後文学における二重言語空間 —小林勝の植民地小説と朝鮮語—	原 佑介 pp.157- 165

個別論文

Le Pygmalion de Rousseau et son esthétique de l'opéra	Yoshihiro NAITO pp.167- 180
---	-----------------------------

- 湖 mizuumi ,See' = 水 mizu + 海 umi ,Wasser-Meer': Ein Blick hinter japanische Kanji-Lesungen
Simon OERTLE pp.181 - 200
- 五体合璧夜巡牌女真大字考釈
吉本智慧子 pp.201 - 211
- ジョン・カラピント (著)『通訳者：普遍文法への挑戦』(上)
三宅正隆 (訳・注) pp.213 - 227

25 巻 3 号 2014 年 2 月

ヴァナキュラー文化研究会プロジェクト

「語りえぬものの語り」小特集

- 「語りえぬものの語り」について ウェルズ恵子 pp. 1 - 2
- <和文>国際フォーラム報告「バラッド(物語歌)の力—記憶喪失と失語からの回復」
ウェルズ恵子 pp. 3 - 4
- <英文>Forum: Power of Ballads: A Dramatic Case of Recovery from Silence
Keiko WELLS p. 5
- <原文>The Stroke and the Song: A Folk Group Experiences Music as Therapy
Michael SPOONER, Midori TOELKEN,
Allen CHRISTENSEN, Kazuko TOELKEN pp. 7 - 14
- <翻訳>脳梗塞と歌—フォーク・シンガー達が、療法としての音楽を体験する—
マイケル・スプナー, ミドリ・トーキン,
アレン・クリステンセン, カズコ・トーキン, /山崎 遼 (訳) pp. 15 - 21
- Folktales を読む—物語の力— ウェルズ恵子 pp. 23 - 40
- 主語名詞句が転位化されている日英語の左方転位構文と右方転位構文の談話内での機能
海寶康臣 pp. 41 - 56
- The Transformative Self in Tom Cho's Look Who's Morphing
SATO, Wataru (佐藤 渉) pp. 57 - 64
- 英語の完了形の継続用法と時の副詞句 西山淳子 pp. 65 - 78
- Moses, Man of the Mountain における人間の自由 古谷やす子 pp. 79 - 92
- Langston Hughes の ASK YOUR MAMA に見るヴァナキュラー文化のゆくえ
湊 圭史 pp. 93 - 108

2012 年度萌芽的プロジェクト研究 B1

西洋見聞集研究会研究報告

近代言語文化期前夜の様相

- 見聞記『航米日録』に見える「行頭」をめぐる—幕末武士の近代語—
浅野敏彦 pp.109 - 117
- 『航米日録』における施設語彙をめぐる—語構成の観点からみる三字漢語—
陶 萍 pp.119 - 135

『航米日録』に見る玉虫の表現意識—外国地名表現からの一考察—	湯浅彩央	pp.137- 151
航米日録の漢字, その定量的概要	石井久雄	pp.153- 173
『航米日録』と『広八日記』の比較考察	彦坂佳宣	pp.175- 194
明治期における外国地名表記—新島襄の草稿を資料として—	入江さやか	pp.195- 208
橋爪松園『英語字類』翻刻と日本語索引	丸山健一郎	pp.209- 220

個別論文

An Overview of Formulaic Language and its Possible Role in L2 Fluency Development	Michael James DAVIES	pp.221- 231
『遊仙窟』口語語彙と和訓についての考察 (一) —名詞の接辞及び重複を中心に—	張 黎	pp.233- 243

研究ノート

Extensionality of Japanese Adjectives	Yutaka OHNO	pp.245- 257
---------------------------------------	-------------	-------------

翻訳

ジョン・カラピント (著) 『通訳者：普遍文法への挑戦』(下)	三宅正隆 (訳・注)	pp.259- 281
---------------------------------	------------	-------------

25 巻4号 2014 年3月

2012 年度冬季企画Ⅱ 「イディッシュ文学が遺したもの」

シャガール作《アポリネール礼讃》の両性具有像について	樋上千寿	pp. 3- 9
ハイム・ナフマン・ビアリクにおけるヘブライ語とイディッシュ語	飛鳥井雅友	pp. 11- 18
イディッシュ語と多言語共生	石光輝子	pp. 19- 21
近親憎悪? ウィーンのイディッシュ	野村真理	pp. 25- 33
イディッシュ文学の内・外—アイザック・シンガーの「救済理想」をめぐる—	徳永 恂	pp. 35- 46
イーデルゾーンの目指した「ユダヤ音楽」—「モダニティー」のなかのユダヤ音楽学誕生—	黒田晴之	pp. 47- 60

2012 年度萌芽的プロジェクト研究 B5

「現代レジャー研究会」研究報告

研究テーマ：レジャー文化の変遷に関する理論的考察	市井吉興	pp. 61- 62
成長戦略とスポーツ政策—観光立国・スポーツ立国・新自由主義型自由時間政策—	市井吉興	pp. 63- 76
福祉国家の変容と移民政策—オーストラリアを事例として—	加藤雅俊	pp. 77- 107

研究ノート

El movimiento estudiantil español bajo el franquismo (1939-1978)	López Jara SANTIAGO	pp.109- 117
--	---------------------	-------------

